

平成30年（2018年）10月18日

## 地域活動の最前線はこれだ！！山形レボリュ〜ション★ ～学生が企画 みんなで考える「地域共創」シンポジウム～

### 【本件のポイント】

- 山形大学1年生有志が、山形県の地域共創に関するシンポジウムを企画。
- 学生主体の学びによる活動を様々な人達に広め、地域の活力にすることを旨とする。
- 若者自ら立ち上がり、行動していくエネルギーや大学の自由度の高い学びを中高生に伝える。



### 【概要】

山形大学の学生有志が10月27日に「山形レボリュ〜ション～地域共創シンポジウム～」と題し、立場を超えて地域共創について学びを深めていくシンポジウムを開催します。

このイベントを企画した学生たち9名は、新庄市東山焼と金山町有屋地域に赴き学んだ集中講義で、それぞれの地域で発見した課題を解決すべく解決策（企画）を提示しました。その企画を講義の中のみで終わらすことなく、地域の魅力を発信していくために実行したいと考えました。その意気込を「レボリュ〜ション」という言葉に込めました。

そこで、地域の人とどのようにかかわっていけばよいのか、どういった心をもって地域共創にかかわっていくことが大切なのかを学ぶために、講演やシンポジウムを企画しました。立場の違いを超え、たくさんの質問や訴えが飛び交えるような会を目指します。

### 【背景】

山形大学で行われている「フィールドワーク共生の森もがみ」では、山形の各地域の魅力に実際に触れ、そこに生きる人々の熱を肌で感じ、課題を発見し解決策を考案するという内容になっています。私達も、新庄市と金山町にフィールドワークに行きたくさんのことを学んできました。しかし、課題の解決策については考案したもの、実際に形になることなく終わってしまう状況になっていました。「講義という形で終わらせたくない！」という思いが募り、ぜひ地域のために考案したアイデアを実現させたいと感じました。

しかし、今の我々では地域おこしの知識やその現状についてまだまだ不足しています。そこで、今回の企画を通して地域おこしに携わる専門家の方や地域おこしの現場に立ち会ってこられた方々との対話、学生の疑問を通してさらにレベルアップして企画の実現につなげたいと考えました。

### 【山形レボリュ〜ション～地域共創シンポジウム～】

日時：10月27日（土） 13：00～17：00

場所：山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館112教室

内容：

- 立案した企画をベースとしてシンポジウムを開催
- 「地域共創」の実績を数多く持つ金丸弘美氏を招聘し講演やアドバイスをもらう
- シンポジウムでは、学生、講師、教員で「地域共創」についてディスカッションを実施する

対象者：（100名程度を予定）

- 最上地域の成人
- 県内の高校生（1, 2年生）、中学生（山大附属1, 2年生）
- 行政の職員（地域振興担当係の方）

## イベント詳細

- 学生発表（1班20分）2班 40分  
新庄東山焼、金山遊学の森、
- 発表・地域代表（鈴木英策氏 戸沢村）20分
- 発表・柴田孝（山形大学客員教授）20分  
（休憩10分）
- 講演 金丸弘美氏 60分
- パネルディスカッション 60分  
コーディネート 阿部宇洋（山形大学講師）  
（金丸弘美氏、鈴木英策氏、学生、柴田孝氏による）

## 【講演者紹介】金丸弘美氏

1952年佐賀県唐津市生まれ。食環境ジャーナリスト、食総合プロデューサー。執筆活動のほか、食の総合プロデューサーとして、ワークショップのプランニングから、プロモーション、ツアーへの展開、公開授業、大学から幼稚園まで各学校での食の講師なども手がける。執筆活動のテーマは、地域デザイン、食育と味覚ワークショップ、食からの地域再生、環境問題、地域活性化。とくに農業、食材に関してはここ15年で北海道から沖縄まで全国の農村や町など1000ヶ所を取材。内閣官房地域活性化応援隊地域活性化伝道師。総務省地域力創造アドバイザー。山形県総合政策審議会委員。

## 【今後の展望】

このシンポジウムでの学びを、最上地域での活動をさらに良いものにしていくための原動力にします。ご参加いただく多くの方からのご意見をお聞きし、疑問を解決して、自分たちなりの「地域おこし」に対する考え方をさらに新しいものにしたいと考えます。また、自分たちの学びを自分たちの言葉で「伝える」ということがどのような意味を持ってくるのかという点についても学びを深めたいと考えています。

さらに、このシンポジウムには中学生や高校生の生徒の皆さんもお招きしています。私たちの活動を伝えることで、地域おこしや学生企画に興味を持っていただき、その自主的な活動を繋げていくことができるのではないかと考えています。

## 【メンバー】

○実行委員長および実行委員

氏名：◎山崎大海（農1）、小笠原舞美（農1）、大竹夏々恵（人文1）、坂本太郎（工1）、松谷裕（農1）、  
稲田峻志（工1）、沈泓學（人文1）、佐藤安希（地教1）、松本和真（工1） 9名

※参考「フィールドワーク 共生の森もがみ」<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/index.html>

山形大学では、平成17年4月から、学生の主体的学びと最上地域の活性化を目的として、最上広域圏の8市町村をそのまま山形大学のキャンパスとして活動を展開する「エリアキャンパスもがみ」をスタートし、学生たちは毎年もがみでの活動を通して多くのことを学んでいます。

「フィールドワーク 共生の森もがみ」は、地域固有の本物の自然や地域に根ざした歴史・文化を活用して、「環境」と「人」とが共生した生活ができる理想的な地域社会の実現を目標としている最上広域圏を、学生に直に感じてもらうために企画された授業です。受け入れ側の市町村に、地域の特色を現すプログラムを提供いただき、現地講師の指導の下、平成30年度は25のプログラムを展開しています。

お問い合わせ

学術研究院 講師 阿部 宇洋（基盤共通教育担当／歴史民俗資料学）

TEL 023-628-4868 メール [taka.abe@cc.yamagata-u.ac.jp](mailto:taka.abe@cc.yamagata-u.ac.jp)